

キャンドウ

# CanDo アフリカ

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo) 会報 2014年3月 [第66号]

## 総会資料号

2013年度 活動報告 案

2013年1月～12月

2014年度 活動計画 案

2014年1月～12月



学校：教室の基礎を保全する土留め壁の建設



学校：保護者による土壌保全の環境活動



学校併設幼稚園-保健：園児用のトイレ建設



地域-保健：エイズ・リーダー研修



## 2013 年度を振り返り、2014 年度について考える

代表理事 永岡 宏昌

2013 年度は、ケニア共和国キツイ地方ミグワニ県での総合的な社会開発、特に住民参加による子どもの教育と健康の保障につながる協力を実施。平行して、ムインギ東県での退出移行期間の活動も行ないました。また 10 月、マチャコス地方マシंगा県で総合的な社会開発の協力活動を開始できました。

ミグワニ県において、小学校の教室建設・補修では、2012 年から実施している 5 校 5 教室の建設、4 校 12 教室の補修、1 校での基礎保全を 3 月までに完了。新たに 3 校 3 教室の建設、5 校 13 教室の補修、5 校での基礎保全を、学校運営能力向上の学習会から実施しています。環境保全活動は、2012 年からの 2 校に 3 校を追加。学校保健では、エイズ公開授業を 30 校、エイズ子ども発表会を 1 校で開催しました。また、早期性交渉予防研修をミグワニ県の 10 校、ムインギ東県の 4 校で個別に実施。幼稚園では、2 園でのトイレ建設が完了し、5 園での保健活動の継続と 4 園での新たな保健活動の形成を行ないました。

地域保健では、ミグワニ県で 2012 年から実施していた基礎保健研修を 6 準区で実施し、全 36 準区で完了。また、エイズ・リーダー研修をミグワニ県の 30 準区、ムインギ東県の 3 準区で実施し、研修修了者による地域エイズ

学習会の開催に協力しました。

マシंगा県では、行政と事業開始を合意し、本格化しつつある地方分権下での事業展開について話し合いを重ねました。

2014 年度は、ミグワニ県では総合的な社会開発を終了し、退出移行期間となります。ムインギ東県は移行期間を終了します。マシंगा県での活動を本格的に実施し、キツイ地方ムインギ中央県での活動形成を目指します。ミグワニ県では、2013 年から継続する小学校での教室建設・補修、土壌保全、幼稚園での保健活動、地域でのエイズ・リーダー研修とその後の地域エイズ学習会への協力の終了を目指します。また、早期性交渉予防研修は、個別校での研修成果を進展させて、教育区単位での小学校教員向けの集合型研修を形成し、ミグワニ県・ムインギ東県で実施します。マシंगा県では、小学校での教室建設・補修と土壌保全・環境活動、幼稚園教師への保健研修、小学校教員へのエイズ教育研修を開始。地域住民への保健研修については、県保健局が主導するケニア地域保健戦略を補完する形で、地域保健師(CHW)への研修を実施する予定です。さらに、ムインギ中央県で総合的な社会開発の方向性を持つ 2 年程度の事業の形成を目指します。

## ケニアの概況

ケニヤッタ政権が成立し、地方分権が進行

2013 年のケニアは、深刻な人的被害をもたらした 2007 年総選挙後暴力(PEV)の再発の不安が高まる中で、3 月に総選挙が実施されました。4 日の投票から 9 日の結果発表まで、国中の日常生活が封印されたような緊張状態が続きましたが、平和裏にウフル・ケニヤッタ氏を大統領、ウィリアム・ルト氏を副大統領とする政権が成立しました。

2 人は、PEV においてそれぞれ互いの民族への暴力を首謀・扇動した疑いにより、国際刑事裁判所での裁判の被告となっています。前回の総選挙では、相手の民族への反感・憎しみを増幅させるリーダーシップを発揮しました。今回、少なくとも投票行動においては、相手の民族への協調を促進するリーダーシップを発揮した、と言えると思います。マスメディアにおいても、選挙前は裁判を逃れようとする利己的な連携、との批判を目にしましたが、政権成立後は大統領の立場を尊重する論調に変わっているように思います。また、選挙前にあった、ケニヤッタ氏が大統領になれば、外交関係に深刻な影響を及ぼす、という欧米各国の警告的なメッセージも、うやむやになったような印象です。

この選挙により、2010 年に発布した新憲法が規定する行政・立法の体制も本格的に

動き始めました。国会は一院制から二院制になって国会議員定数が大幅に増加し、47 地方では新たに首長(County Governor)が選出され、地方議会議員も選出されました。そして、地方分権の体制が整う中で、県の保健行政や教育の幼稚園部門が、地方政府に移管されました。首長のリーダーシップによる、地域の行政サービスの改善・向上が期待されます。ただ、首長や議員数や役職が顕著に増加したため、報酬の増額や高待遇を求める声も多くあがり、健全な財政を維持できるのか不安視する意見もあります。

一方、2011 年 10 月に始まったケニア軍のソマリア侵攻は続き、ケニア国内ではソマリア武装勢力による報復攻撃のリスクに恒常的にさらされています。67 人以上の犠牲者をだした 9 月の高級ショッピングモール襲撃事件は、そのリスクが大規模事件につながったものです。今のところ、残念ながら、再発を予防し、リスクの解消につながるようなソマリア国内の平和の進展、武装勢力との対立の解消、治安対策の劇的な改善などは見られません。

ケニアの人々の日常生活は、不安定な社会状況の中、さまざまな先行きの不安とともにあるように思います。

## ケニア共和国での活動

1998年、CanDoは当時の東部州\*ムインギ県(現、ムインギ東県)で教育協力を始め、その後、教育、保健、環境保全の総合的な社会開発活動を実施(2011年度から退出移行期間)。2011年3月にミグワニ県、2013年10月、マシंगा県で同様な社会開発を開始しました。また、ムインギ県とミグワニ県の間、ムインギ中央県で、2013年7月に調査。活動は学校(小学校および併設幼稚園)と地域社会を対象に行なっています。

\*ケニアでは行政区分が8州から47地方に変更。キツイ地方ムインギ東県・ミグワニ県、マチャコス地方マシंगा県は半乾燥地で、主に農業と牧畜を兼業とするカンパの人たちが暮らしています。

### キツイ地方 ミグワニ県/ムインギ東県

#### ●学校：小学校と幼稚園の施設拡充 —ミグワニ県

##### 2013年度活動報告

#### ◆運営能力向上と 教室建設・構造補修・基礎保全

ミグワニ県は起伏があり、傾斜地に建てられていて土壌侵食が深刻な小学校が多く、崩壊の危険性が、教室数の不足とともに問

題となっている。教室建設、教室の構造補修(鉄筋の柱とはりで補強)、基礎保全(教室の基礎の周りに土留め壁を造り、土を埋め戻す)活動を継続した。いずれの活動も、小学校保護者の学校運営能力も目的としていて、運営面と技術面の学習会を開催してから、保護者と協力して作業に進めている。

2012年度から継続している5校で計(以下、同じ)5教室の建設、4校12教室の構造補修、1校での基礎保全を3月末までに完了。新たに、3校3教室の建設、構造補修を5校13教室、5校での基礎保全を実施した。

教室建設においては、2004年から1教室の隣に基礎と床部分までをCanDoが協力して造り、その上の部分からは保護者だけで完成させる、という「1教室+1基礎」を実施。多くの学校で2教室目が完成してきた。構造補修についても、CanDoとの作業で能力と自信をつけたので、保護者だけで進めることができる、という声があがっている。

#### ◆小学校・幼稚園への水タンクの供与

教室建設に使用する水、また、生活用水の確保が難しい小学校1校に水タンクを供与し、8校で台座の設置作業に協力。タンクの台座と屋根から雨水を導入する樋の設置に協力して、学校の保健活動・給食に活用できるようになった。

幼稚園での保健活動(p.6参照)として、幼稚園で園児用のトイレの建設を行なった。

##### 2014年度活動計画案

#### ◆運営能力向上と 教室建設・構造補修・基礎保全

ミグワニ県で2013年度に実施した、3校3教室の建設、構造補修を5校13教室、4校での基礎保全に、4校4教室の構造補修を加えて、4月末までの完成を目指す。

#### ●学校：小学校での環境活動 —ミグワニ県

##### 2013年度活動報告

#### ◆環境学習会と作業

ミグワニ県の小学校5校(トゥミラ、ムルリニ、カンベンベ、キトゥラニ、バウ小学校)で、学校の状況に合わせて、環境の学習会と作業を行なった。内容は、植樹、接ぎ木、菜園、乾燥野菜作り、収穫物を利用した給食作り、傾斜のある校庭において、等高線に沿って草を植える「草地化」など。

#### ◆土壌保全の活動

5校のうち、2校(トゥミラ、ムルリニ小学校)は、校庭の土壌侵食が特に深刻で、2012年度、地表水の排水について、公衆衛生官と調査を実施。2013年度は、校庭で前項の草地化に加えて、「石堤」や「蛇かご(金網に石を入れる)の設置、排水路作りなどの土壌保全の活動を行なった。

##### 2014年度活動計画案

#### ◆環境の学習会と作業

2月末までに5校での活動を終了する。

#### ◆土壌保全の活動

2校(トゥミラ、ムルリニ小学校)で、公衆衛生官とともに、土壌保全活動の効果に関する評価会議を行なう。その結果、あがった必要とされる活動を実施する。

#### ●学校：小学校での保健研修・学習会 —ミグワニ県、ムインギ東県

##### 2013年度活動報告

#### ◆エイズ関連—公開授業と子ども発表会

2012年度に終了した教員対象エイズ教育研修のフォローアップとして、公開授業と子ども発表会の実施を促進した。

低学年からさまざまな教科で扱うエイズに関する教員の知識が不十分なことから行なっているエイズ教育研修を、ミグワニ県では2011年度から2012年度に全5教育区で実施。第1課程ではエイズに関する理料的知識、第2課程では低学年、第3課程では高学年に対する教授法を取り上げた。

研修を修了した小学校の教員が、他の教員たちとその知識を共有するための公開授業は、30校で行なわれた。子どもたちがエイズを劇、詩などで表現する子ども発表会は、1校で開催された。

#### ◆早期性交渉予防研修

小学校における早期性交渉による妊娠、そのための中退の問題に対して、子どもたちへの予防の教育を行なってほしい、とムインギ東県の教育局長が2010年、CanDoに要望。当初、対象は個別校だったが、その後、すべての小学校でという構想が提示された。

個別の小学校での早期性交渉予防研修を2013年度も継続し、ミグワニ県では10校、ムインギ東県では4校で実施した。内容は1日目に教員対象の研修、2日目は保護者向け研修と教員・保護者の話し合い、3日目は子どもへ保健トーク(年齢か学年でグループ分け)。ムインギ東県の2校での保健トークは、近くの高校と共催で行なわれた。

エイズ教育研修を修了した教員が、子ども、保護者、同僚教員に早期性交渉予防を教えるための、教員への集合研修を形成する準備を進めた。

#### ◆水に関する学習会

施設拡充で水タンクを供与したミグワニ県の小学校4校で、水タンクの使用と保健の学習会を開催した。

#### 2014年度活動計画案

#### ◆早期性交渉予防研修

ミグワニ県の全5教育区で2月末、ムインギ東県の全3教育区で9月末までに、エイズ教育研修を修了した教員を対象に、集合研修を実施する。

早期性交渉予防の集合研修を修了した教員による子どもへの保健トークに協力する。

#### ●学校：幼稚園(併設)での保健活動

—ミグワニ県、ムインギ東県

#### 2013年度活動報告

#### ◆保健学習会と作業

勉強面が期待され、健康への関心は向けられにくい幼稚園での保健活動として、ミグワニ県では、2012年度から継続する幼稚園5園と新規の4園で、保護者を対象に保健学習会を開催、関連した作業を行なった。内容は病気、栄養、害虫駆除などと野菜作り、収穫物と持ち寄った穀物と豆による給食作り。

幼稚園の教室に近い場所に、園児用のトイレを建設する作業が、2園で完了し、1園で進行している。

#### ◆成長の記録カードの配布

ムインギ東県の全3教育区で成長の記録カード(身体計測等を記載)を配布した。

#### 2014年度活動計画案

#### ◆保健学習会と作業

ミグワニ県での活動は2月末で終了。

#### ◆成長の記録カードの配布

ミグワニ県とムインギ東県で、必要とする幼稚園に配布する。

#### ●地域：保健研修と学習会

—ミグワニ県、ムインギ東県

#### 2013年度活動報告

#### ◆基礎保健研修

ミグワニ県では、2011年度から2012年度に地域住民全体を対象に、エイズと母性保護の学習会を開催。その後、2012年度には各村から選出された住民(男女一緒)を対象に、準区ごとに基礎保健研修を30準区で実施した。2013年度は、継続して6準区で行ない、全36準区で完了した。3日間のコースで、母子保健と家族計画、栄養、水と衛生、一般的な病気、性感染症とエイズについて学ぶ。

#### ◆エイズ・リーダー研修

ミグワニ県での基礎保健研修が全準区で完了後、修了者のうちエイズを教える意欲のある人を対象に、準区ごとに3日間のエイズ・リーダー研修を30準区で実施した。ムインギ東県においても、3準区で行なった。この研修は、参加者が地域の住民に、エイズに関する情報を体系的に、コンドームの適切な使用方法を具体的に説明できるようになることを目指した。修了者は、自ら住民を集めて地域エイズ学習会を開催。当会専門家が参加し、助言した。

ムインギ県では、適切な説明ができた修了者の地域エイズ・リーダーとしての認定を実施。ミグワニ県では想定した以上の学習会

の開催数(60回)となるため、全てに専門家が参加するのは難しいことからとりやめた。

学習会の水準は高く、エイズについて本当に教えたいという意欲を持ち、地域での人間関係がある修了者の説明は、専門家が伝えるよりもよい面があることも分かった。

子どもの性交渉・早期妊娠が地域の問題としてとらえられている、ミグワニ県の学校・地域社会において、早期性交渉予防研修を進展させる計画はとりやめた。

#### 2014年度活動計画案

#### ◆エイズ・リーダー研修

ミグワニ県において、当初予定していた30準区に加えて、2月末までに3準区で実施。その後、残り3準区での開催を目指す。

ミグワニ県では、2月末までエイズ・リーダーによる地域エイズ学習会の開催に積極的に協力する。

★外務省日本NGO連携無償資金協力による「ミグワニ県\*での住民参加による教育の質的向上を通じた初等教育普及事業」の事業期間は2011年3月～2014年4月(当初の予定を2か月延長して、38か月間)。ミグワニ県での活動の多くは4月末で終了。その後、退出移行期間として、必要とされる活動を継続していきます。

\*開始したときの名称は「ムインギ西県」。

2013 年度活動報告

10 月、マシंगा県マシंगा区、キバー区(教育区は同名、同一地域)において、ムインギ東県、ミグワニ県の経験を統合した総合的な社会開発事業を開始。行政官を訪問し、小学校での聞き取り調査を行なった。

過去には住民が土地を確保して、小学校の教室を自律的に建設していたが、ケニアで無償義務教育が始まった 2003 年くらいから、政府系資金や国際 NGO の支援により、立派な教室が建てられるようになった。しかし、全ての教室が立派な教室にかわる前に、支援が終わってしまうと思われ、老朽化した教室が併存する状況にある。

給食は、2008 年までは世界食糧計画(WFP)の支援で全ての小学校で提供されていたが、契約終了により、ケニア政府に引き継がれ、対象校が減らされている。同じ地域の小学校で、給食の有無があり、ない学校において、家庭から弁当を持ってこることができない子どもは昼食を食べられなくなっている。

★お詫びと訂正

会報 65 号 p.6「ケニアでの活動 9~11 月」のマシंगा県では、「11 月のキバー教育区の小学校訪問」が加わります。

2014 年度活動計画案

●学校: 小学校教員へのエイズ教育研修

小学校教員を対象として、授業の中でエイズを的確に教える能力を高める、エイズ教育研修の第 1~2 課程を、マシंगाとキバー教育区でそれぞれ 2 回ずつ実施する。

●学校: 幼稚園(併設)教師への保健・エイズ研修

幼稚園教師を対象として、子どもの健康を守る知識・技能を高める、保健・エイズ研修を、マシंगाとキバー教育区でそれぞれ 1 回ずつ実施する。

●学校: 教室建設・補修と土壌保全

保護者の参加と運営能力の向上をはかりながら、小学校 2 校で土壌保全のための土留め壁の設置、2 校で 4 教室の構造補修を実施する。

●地域: 保健研修

◆地域リーダーへの

保健とリーダーシップ研修

マシंगा区とキバー区の計 8 準区のうち 4 準区で、村長老と共に、地域の健康のための戦略会議を実施(次の研修の準備)。

◆住民への保健研修

マシंगा区とキバー区の 4 準区で、県保健局との協働で、ケニア地域保健戦略(CHS)に沿って、住民の中から保健人材を選び、保健研修を実施する(その後、県保健局が、これら人材を地域保健師(CHW)に認定し、CHS 活動の担い手として管理・監督する)。

村落部での開発協力のほか、スラムに住む高校生への教育協力を行なっている。

2013 年度活動報告

●教育: 高校生への補習授業

学校の休暇期間中、スラムの住居では勉強の場がないことから、1999 年、4 月、8 月、12 月の年 3 回の補習授業を開始。2006 年、講師のほとんどが以前、補習を受けたことがある地域の大学生となり、2010 年からは CanDo のスタッフは入らない形で実施されている。2012 年度は、8 月に全国一斉に補習授業は禁止の通達があったため取りやめ、12 月も見合わせた。「有料の補習授業を休暇期間中に実施するのはよくない」という従来からの考えを教育省が徹底。それ以前は「(諸条件で)遅れている子どもたちに対しては、実施しても問題ない」ということだった。

2013 年 4 月、スラム在住の講師が、教育事務所からの許可を得て実施。ただし、小学校は使用できなくなったため、地域の施設を借りて行った。8 月、12 月も実施した。期間は 10 日間。

2014 年度活動計画案

●教育: 高校生への補習授業

大学生の講師が主体的に実施する、高校生への補習授業に引き続き、協力する。

2013 年度活動報告

7 月から辺縁のワイタ郡で調査。小学校の教室建設・補修、診療所の建設など、基盤整備への政府支援が、他の郡に比べ遅れが見られる。同郡の刑務所に勤務する刑務官、職員の多数が単身赴任で、子どもとの性交渉やエイズの問題が危惧されている。

2014 年度活動計画案

ワイタ郡で、小学校を中心とした社会開発事業を開始する。

●学校: 小学校教員へのエイズ教育研修

●学校: 幼稚園(併設)教師への保健・エイズ研修

●学校: 教室建設・補修と土壌保全

他のアフリカの国での活動

2013 年度活動報告

1 月にタンザニアで外務省の依頼で草の根・人間の安全保障無償資金協力「本邦 NGO によるフォローアップ事業調査。活動の形成調査は実施しなかった。

2014 年度活動計画案

マラウイ共和国などでの活動形成の可能性を検討する。

## 国内活動

### 2013 年度活動報告

#### ● 広報

◆ 会報『CanDo アフリカ』発行：年 4 回、第 62～65 号(3・6・9・12 月)。63 号「環境活動」、64 号「教室の構造補修と基礎保全」掲載

◆ 小冊子発行：『CanDo の 15 年の歩み』(9 月)

◆ ウェブサイト：これまでの主な活動を追加

◆ 勉強会開催：講師は永岡宏昌(全 6 回。5～7 月、金曜夜。文京区民センター)

◆ 15 周年記念イベント開催(7 月 20 日、文京区民センター)

◆ イベントに出展：アフリカンフェスタ 2013 (5 月 11-12 日、横浜・赤レンガ倉庫)、アフリカ～手をつないで前へ～(7 月 6 日-9 月 1 日、JICA 横浜)、グローバルフェスタ JAPAN 2013 (10 月 5-6 日、東京・日比谷公園)

◆ 他の媒体での広報：「なんとかしなきゃ！プロジェクト」facebook で勉強会 他

#### ● 他団体・機関との連携・協力

・教育協力 NGO ネットワーク(JNNE)運営委員(永岡)／JANIC 正会員／「動く→動かす」正会員／TICAD V コンタクト・グループ・メンバー(永岡)／「世界中の子どもに教育を」キャンペーン賛同団体／「なんとかしなきゃ！

プロジェクト」メンバー／NGO-JICA 協議会「草の根技術協力事業 10 年の振り返りのための分科会」委員(永岡)

・NGO・外務省定期協議会でタンザニア調査を報告(6 月、7 月。永岡)

#### ● 活動経験の提供・講師派遣

・JNNE「国際協力セミナー」、JC「国際協力フォーラム」、「なん！プロト」プレス勉強会、うちよボランティア貯金報告会、法政大学法学部、国際開発学会パネル・ディスカッションで講演・講義・報告(永岡)

・JICA 駒ヶ根「信州グローバルセミナー」、青山学院短期大学こども学科で講演・講義(佐久間)

・『国際開発と協働』(明石書店、2 月)で分担執筆、「The Japan Times」(6 月 1 日掲載)取材(永岡)

### 2014 年度活動計画案

#### ● 広報

会報、ウェブサイト、勉強会、イベント出展、他の媒体での広報を継続。入会、寄付への呼びかけ方について、外部とともに検討。

● 他団体・機関との連携・協力を継続

● 活動経験の提供・講師派遣を継続

## 組織運営 総会・理事会／スタッフ／支援および事業委託元機関・団体

### 2013 年度報告

◇ 年次総会：3 月 30 日に開催。2012 年度活動報告・会計報告が承認され、2013 年度活動計画・予算を決定。準理事として、伊東彩(調整員)、久保内祥郎(事務局長)2 名の追加を決定。

◇ 理事会：第 1 回(3 月 30 日)-総会の 5 議案を承認／第 2 回(7 月 20 日)-2013 年度の活動の中間報告と後半の活動計画、1～6 月の会計の試算表を確認。CanDo 預託金の第 2 回募集を決定。

◇ 監査：3 月、ナイロビ事務所で監査法人 Easterbrook&Co.による外部監査、東京事務所でも監事による内部監査を実施。

#### ◇ スタッフ

—ケニア—

調整員：石田純哉(～5 月)、伊東彩、鬼頭景子(1～10 月)、橋場美奈(12 月～)、カンダリ・ムロンジヤ、レンソン・ムタンギャ(4 月～) 調整員助手：レンソン・ムタンギャ(～3 月)、エスタ・ドゥ、グレース・ティタス、パトリック・マサイ、ピーター・カランバ、ジャネット・マカウ、ジョサイア・キトンガ、フレドリック・ザンギ、レベッカ・ムワンガンギ

通訳：エドナー・ムウィカリ(9 月～)

インターン：合田暁良(～1 月)、福田幸、才田恵里奈(以上、～2 月)、岩本穂菜美、安井達哉、藤原照恭(以上、4～10 月)、吉岡航希(6～12 月)、西岡宏之(8 月～)、三國志保(9 月～)、泉田恵子、井町友香(以上、10 月～)、岩崎敏実(12 月～)

専門家：幼児育成—吉田真季子(～2 月)／建設—フランシス・ムエンドワ、キエマ・ムワンガンギ／教育—マーガレット・ムトウンガ、クリスティン・ダイナ／保健—エリザベス・グワリ、ジェイムス・キズク、ベンジャミン・カムティ、ミルカ・カワシア・ゾビ、ジョセフ・マルキ／環境—トーマス・ムシラ

日本からの出張：事業責任者(兼代表理事)永岡(1～3 月、6 月、7～11 月、12 月) —日本—

代表理事：永岡宏昌／事務局長：久保内祥郎／事務局員：佐久間典子／インターン：樋惇紀(～3 月)

#### ◇ 支援および事業委託元機関・団体

外務省日本 NGO 連携無償資金協力／(独行)国際協力機構草の根技術協力事業(パートナー型)／世界の人びとのための JICA 基金／庭野平和財団／三井住友銀行ボランティア基金／(特活)国際協力 NGO センター(JANIC)／ヤフー(株)／ユナイテッドピープル(株)／(株)ネットフォレスト

## 事務局から

### 2014 年度年次総会を開催します

日時： 2014 年 3 月 30 日(日) 14:00～17:00

会場： 不忍通りふれあい館 3 階会議室(東京メトロ千代田線「根津」より 2 分、「千駄木」より 12 分)

議題： 2013 年度活動報告・会計報告／2014 年度活動計画・予算書／

役員改選／その他

\* 会員の方は、同封の案内を参照してください。

#### 報告

##### ◇組織

○2014 年 1 月 12 日、2014 年度第 1 回理事会を開催。2013 年度活動報告案、2013 年度会計報告(暫定版)、2014 年度活動計画案、2014 年度予算書案について検討し、役員改選の人選と進め方について決定。

##### ◇支援

○2013 年 12 月 26 日、三井住友銀行ボランティア基金から寄付。ムインギ東県における小学校の早期性交渉・妊娠予防の取り組みに対して、100 万円。

##### ◇国内活動

○2014 年 1 月 22 日、シンポジウム「NGO と JICA の連携がもたらしたもの～草の根技術協力事業 10 年の成果と学び～」で、10 年の振り返り分科会委員として、代表理事永岡宏昌が登壇。

#### ◇その他

○2013 年 12 月 3 日、在ケニア日本大使館において、代表理事永岡宏昌が在外公館長賞を 19 名の方々とともに受賞。

#### 人の動き \* 勤務・研修・出張はケニア

○2013 年 12 月 12 日、橋場美奈が調整員(非常勤)として勤務を開始。

○12 月 18 日、岩崎敏実(いわさき としみ)をインターンとして派遣。

○2 月 22 日、インターン吉岡航希が研修期間を終了して帰国。

○2014 年 1 月 1 日、事業責任者(兼代表理事)永岡が出張から帰国。

○1 月 8 日、インターン西岡宏之が帰国。

○1 月 27 日、永岡が出張。

○1 月 29 日、西岡を調整員として派遣。

○2 月 8 日、築地美津子(つきじ みつこ)がインターンとして研修を開始。

■次号は、6 月に発行の予定です。

#### CanDo アフリカ [第 66 号]

2014 年 3 月 10 日発行

発行人： 永岡宏昌

編集人： 佐久間典子

発行： 特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)  
〒110-0001 東京都台東区谷中 2-9-14 第 2 森川ビル B 号室

電話/FAX: 03-3822-1041

電子メール: tokyo@cando.or.jp

ウェブサイト: <http://www.cando.or.jp/>

郵便振替: 口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会